

令和7年度学校評価報告書

令和8年（2026年）3月18日

北海道教育委員会教育長 様

北海道岩見沢農業高等学校長 近江 勉

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> (1) 個に応じた指導により、自律し社会で生きていく上で必要な学力を身に付けさせる。 (2) 生徒の安全を確保した上で、自主的・自立的な活動を推進し協働する力を育成する。 (3) グローバルな視野で人や社会と関わることができる、コミュニケーション力を育成する。 (4) 地域農業や産業を担うために、困難に直面して改善できるしなやかな心身を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA活動について、円滑に運営することができた。特にPTAの学校祭の模擬店参加は、定着してきており、学校と保護者の交流の場となってきた。 ○ 生徒募集に係る募集方法を一部見直し、効率的に募集することができた。（SNS広告等） ○ 生徒募集委員会と連携し、より充実した生徒募集の在り方を検討する必要がある。 ○ 本校の学習活動の成果を幅広く周知するため、学校ホームページの積極的な更新を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の努力の成果が現れてきているが、生徒の活躍を保護者に積極的に知らせるために、引き続き安心メールやホームページ等を活用してほしい。 ○ SNS等を活用した広報活動については評価ができる。今後もより積極的な周知活動を望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次年度、全道高P連が空知を当番地区として実施されることから、より積極的な保護者のPTA活動への参加を促すよう、取組の充実を図る。 ○ 生徒募集に係り、ホームページ、スクールガイド、ポスター等の内容を充実させるとともに、中学校訪問などによる積極的な情報の発信を行う。 	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科担任会議を開き情報交換や共有することで、クラスによってはTTでの授業を行うなどして組織的に授業規律等に対応することができた。 ○ 年度途中から成績に関する学科・教科会議を設定し評価規準の見直し・検討を実施した。 ○ 生徒の学力向上の実現に向けて、全教職員が方針を共有し、統一した方向性で指導を行うことが求められる。授業規律に関する仕組みや環境づくりについて発信する必要がある。 ○ 学科・教科により評価規準にバラツキが出ないよう明確にし、統一した見解のもと適切に実施するため、成績に関する学科・教科会議を継続して設定していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学力向上の実現に向けた授業改善の推進及び授業規律の徹底を望む。 ○ 大学進学希望者に向けた、基礎学力向上に係る指導を望む。 ○ ICTを活用した不登校生徒に対するオンライン授業について、今後も継続を望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業規律の確立を行った上で、学力に合わせた学習指導や教科における習熟度別の取り組みを検討する必要がある。 ○ 不登校生徒に対するオンライン授業については、今年度の反省をもとに内規を整備し実施する。 	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめと疑われる事案が発生した際には、「いじめ対策委員会」を開催し、いじめの積極的認知を組織的に取り組むことができた。 ○ 学校全体の教育相談体制を充実させるため、教育相談週間を年間2回設置することで、生徒理解に努めることができた。 ○ 駐輪場に防犯カメラを設置したことにより、自転車へのイタズラがなくなり、生徒の防犯意識の醸成を図ることができた。 ○ 学校外での生徒指導件数が増加したことから、問題行動の未然防止のために、日頃から教職員全体で校内巡視等の日常的な生徒指導に取り組む必要がある。 ○ 自動車免許取得後の生徒事故が発生したことから、免許取得後の取扱について検討する必要がある。 ○ SNSの投稿を巡るトラブルが各学年で生じていることから、SNSの正しい利用について今一度指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の取組に対する保護者の理解が十分ではないというアンケート結果を踏まえ、学校と家庭が連携して生徒の基本的な生活習慣等を確立させる協働体制づくりが進むよう工夫・改善を図ることを望む。 ○ 生徒の身だしなみ指導の校内で統一した指導など、実施方法について検討を望む。 ○ 防犯カメラの設置など、引き続き生徒指導事故の未然防止に係る取組の推進を望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和8年度は、夏服導入の完成年度であることから、制服の着用について指導を徹底する。 ○ 今年度、駐輪場において監視カメラを設置が問題行動の未然防止に一定の効果があったことから、来年度も引き続き校内の防犯対策を徹底していく。 ○ 生徒及び教職員のいじめの認知に関する理解を深め、いじめの未然防止につなげる。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学年のHR担任と連携し、生徒の希望を勧奨しながら生徒一人一人に対する個別最適なキャリア教育の推進を図った。今年度の3年生の主な進路実績は、大学短大併せて37名、専門学校40名、就職104名のうち、公立大学2名、公務員22名であり、進学希望者及び就職希望者ともに、決定率は97.3%となった。 ○ 進路指導に際し関係機関や企業との連携を図るため、各学科における進路指導の取組状況を把握必要がある。また、CG部内を含め、進路活動に係る情報を各方面と共有し組織的な進路活動を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学校生活を充実したものにするためには、生徒が何を求めて入学してきているのか把握するとともに、1年次から卒業後の進路を見据えたキャリア指導を望む。 ○ それぞれの生徒が自分の希望する進路を実現できるよう、
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域産業を支える業界と連携したキャリア教育の推進を図る。 ○ 外部機関が主催する各種事業について、校内のキャリア教育と関連させるため、検証及び精選を図る。 	
農業教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のDX化推進を見据え、デジタル人材育成のための学習活動をすべての学科で展開することができた。 ○ 新規就農支援プロジェクトにおいて、先進農家視察や若手農家との意見交換だけでなく、海外農業研修の説明会を行ったことで、農業経営に対する多角的視点を養うことができた。 ○ 農業クラブ顧問が中心となり、3大行事に対する指導を強化するなど、生徒の学習内容充実を図る必要がある。 ○ 施設の老朽化と農業機械の更新等について、計画的に進めていくための準備が必要である。また、事業終了後のICT機器等のランニングコストを捻出するなどして、農場全体の在り方を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ DXハイスクール推進事業に係り、本校の特性を生かした農業教育の一層の充実を望む。 ○ DXやGXの推進を農業高校の主管校である本校が中心となり、進めていく必要がある。農業クラブの活動等を含む充実した農業教育の推進を望む。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマート農業やデータ駆動型農業、環境保全型農業など、さまざまな農業経営の形に対応すべく、情報教育と融合させた学習を展開する。 ○ 地域課題を的確にとらえ、同じ目的で課題解決に向かう取組を推進するなど、持続可能な地域との連携体制を構築する。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会議等での資料配付及び口頭による補足説明 ○ 本校ホームページへの掲載 	

3 添付資料

- (1) 令和7年度教育計画の評価と課題
- (2) 令和7年度学校評価に関するアンケート調査結果（生徒・保護者・教職員）